

「JANNET30 周年記念大会」写真特集

メールマガジン 第 246 号 4 月号 2024 年 4 月 30 日発行



—目次—

トピックス

～JANNET30 周年記念大会 写真特集～

1. 2023 年 12 月 2 日（土）の会場の様子 —記念講演～レセプション—

～第 20 回「リハ協カフェ」登壇報告～

2. 楽しみながら身につける支援「Let's 協力」の研修効果について

琉球大学・沖縄国際大学 兼任非常勤講師/

DET 沖縄 代表

小林 学美

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCRPD）締約国情報

トピックス

～JANNET30周年記念大会～

1. 2023年12月2日（土）の会場の様子 ー記念講演～レセプションー



役員の皆様、今日はよろしく
お願いいたします！↓



↑受付も役員の皆様が担当してくださいました。



↑会場の様子。

いよいよ開会です！→





会場のうしろには、会員団体の皆様から届けていただいた、団体紹介のポスターを掲示しました。↑



↑山形辰史先生の基調講演。
シンポジウムの様子↑

皆さん、非常に熱心に聴講くださいました。

お手伝いくださった学生さんからの貴重なコメントもいただきました！→



～レセプション～



お料理も美味しそう！

リハ協寺島副会長に乾杯のご発声をいただきました。



乾杯！！



ダスキン研修生も参加してくれました。



子どもたちも参加しました！



様々な会話の輪が広がりました。

～感謝状 授与～



←子どもたちもお手伝い。



感謝状をお渡しする、松井亮輔先生、池住義憲さま、上野悦子さん。



お手伝いメンバーの自己紹介



↑松井亮輔 JANNET 前会長。→



←JANNET 創立時の幹事メンバー、池住義憲氏。↑



↑上野悦子 JANNET 前事務局長。→





↑今後とも、よろしくお願いいたします。



↑これからも、JANNETを盛り上げましょう！



←記念品のクッキーは、日本セルフセンターの皆様で作成していただきました。美味しかったです！



集合写真

～第 20 回「リハ協カフェ」登壇報告～

2. 楽しみながら身につける支援「Let's 協力」の研修効果について

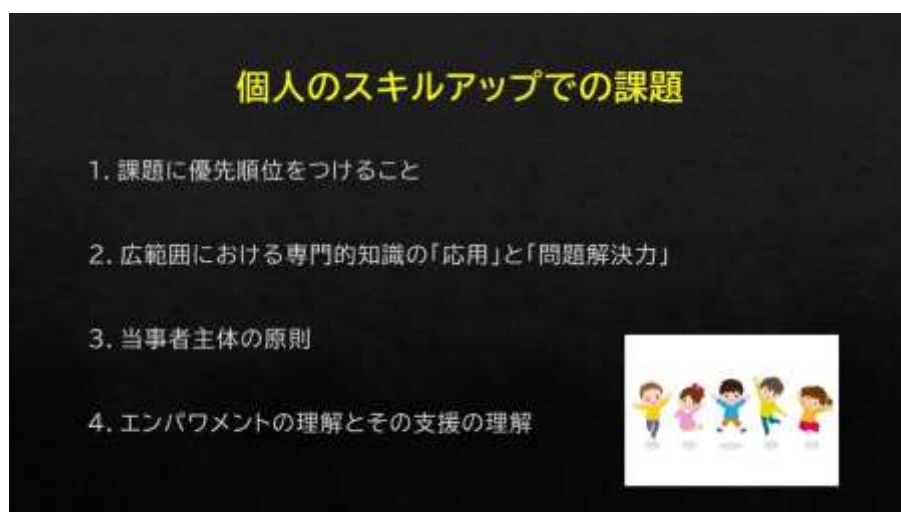
琉球大学・沖縄国際大学 兼任非常勤講師/
DET 沖縄 代表
小林 学美



小林 学美氏（当日のご登壇の様子）

※去る 2024 年 2 月 20 日に開催した、（公財）日本障害者リハビリテーション協会主催『第 20 回「リハ協カフェ」』にてご登壇いただいた内容を、まとめていただきました。

共生社会づくりには「連携」「協働」、そして専門職としてはもちろん知識とその応用力が欠かせません。そこで重要となってくるのが、立場で上下が創られることなく、同じ目線で、同じ土台（テーブル）で行われる「対話＝アサーション」です。言葉ではなんとなく理解していても、いざできているかというとなかなか難しく感じる人が多いのではないのでしょうか。また、生きていく上でどのような状況でも、もっとも課題となるのが人間関係とそこで起こるストレスです。



当日の PowerPoint より

支援を身につけるための研修には、実際の事例を用いたロールプレイもありますが、このカードゲームは、経験したことのないケースにも新しい感覚で取り組めるところが楽しみにもなることが大きな魅力です。トランプゲームに例えると、子どものころに経験した「神経衰弱」の応用版のような感覚です。

福祉職を目指す学生、スクールソーシャルワーカーらにこのゲームに取り組んでもらった結果、繰り返しこのゲームを応用してみることで特に 3 つの大きな効果が見られました。

研修を経験したことによる効果

～全体的にゲームを楽しむ効果で積極的な発言ができるように♪～

- ★★★ 1. エンパワメントの理解が深まり、ゲーム上で積極的な応用があった
- ★★ 2. 課題の「優先順位」の意識づけが身に就いた
- ★★ 3. 「地域の多職種との連携」が積極的に行われ、「お願い」が上手になった
- ★★ 4. 不登校児を「学校に行かせる」という感覚から解放され
多様な教育の在り方など、新鮮なアイデアが生み出された



当日の PowerPoint より

1. 支援を考えるにあたり、課題整理の基礎となる「医療・保健」「教育」「生計」「社会（制度利用を含む）」「エンパワメント」の5つの領域を意識できるようになった
2. ニーズのある人から課題を傾聴した後の、支援の優先順を意識しやすくなった
3. 長期的にニーズを持つ「当事者の力」をストレングスの視点でみていくと、支援として「エンパワメント」の意味を理解できるようになった

更にもう一つ加えると、楽しみながらゲームを行うことで対話が増え、聞き上手、お願い上手になったということが挙げられます。

相談援助の過程で課題の整理や、優先順位の見極めに苦労することは多く、支援をしたいという思いがあっても、時にはその思いが強すぎることで、見立ての段階で思い込みが先行してしまったり、偏りが出てしまうことがあります。また、関心の薄い分野の介入には尻込みをしてしまうこともあるでしょう。それが、まずは実際の自分の抱えているケースなどから離れたゲームであること、カードを引いてみて初めてニーズがわかる、しかしそれがゲームという疑似体験だからこそ、これまで経験したことのない支援にも初めて手を付けられたり、だんだんを会話や対話がすすんでくると、今までやったことのない支援も思い切ったアイデアを出せたりします。これを繰り返すことで、支援や連携に対する自信が生まれたり、自分の支援の振り返りにもつながっていく様子が見て取れました。ゲームのあとの振り返りの時間では、自分自身が関心を持っている実際の社会資源についてや、実際に関わっているケースの相談などに当てはめた会話などに発展し、行き詰っていた考えに道が開けたような表情を見て取れました。

お互いに対等な立場で課題を共有し、解消や解決に向けた話題を分かち合うことにつながっていくこのゲームにはいろいろな可能性を感じます。

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCRPD）締約国情報

(関連サイト：<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/right.html>)

署名国・地域数 **164**/ 締約国・地域数 **191** (2024年4月末現在)

https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=IND&mtmsg_no=IV-15&chapter=4&lang=en

編集後記

障害者権利条約の第24条、教育に関する心配事がありました。総括所見にて指摘された、「分離された教育ではなく、地域で教育を受ける体制」に困惑している話をモルディブろう協会の役員から聞きました。モルディブ政府は障害当事者団体に意見を聞くことなく、総括所見に基づいて施行、聞こえない子どもたちを手話言語ができる先生や友だちと離れ離れにして、各自の地域学校へ通う方針にしたそうです。聞こえない子どもたちはコミュニケーションが難しい、情報保障がない状態で教育を受けていると言います。どうしてそのような判断になったのか理解に苦しみます。また、子どもたちが友だちとコミュニケーションが取れているのか？仲良くやれているのか？どんな状態なのか分からないのこと。社会的なコミュニティを身に付けられずに育つ子どもたちを、モルディブろう協会が受け皿となり頑張っていくと話されていたことが印象的でした。

(嶋本 恭規/JANNET 広報・啓発委員長)

JANNET 事務局では、会員の皆様よりメールマガジンに掲載する国際活動に関する情報を募集しております。団体会員様のイベント情報などありましたら事務局までご連絡ください。

JANNET 障害分野 NGO 連絡会

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会内

【JANNET 事務局直通】 TEL : 03-5292-7628 FAX : 03-5292-7630

新 URL: <https://jannet-hp.normanet.ne.jp/>

↑ホームページのアドレスが変わりました！ご注意ください。